

ブックちゃんの

2014年11月11日

ふじのみや探検

第14号 山宮浅間のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1 なぜ山宮浅間神社っていうの？

浅間神社は、むかし、山宮にありました。(ブックちゃんのふじのみや探検 第2号 浅間大社のひみつ)

山宮から大宮に浅間神社を移したのは、坂上田村麻呂さかのうえのたむらまろだといわれています。山宮には、そのまま山宮浅間神社として残り、新しく大宮に浅間大社ができました。山にある浅間神社だから山宮というんだね。浅間大社は、山宮やまみやに対する里宮さとみやになります。つまり、山宮浅間神社が、実家じっかということになります。

あなたが、ハトになったとしましょう。浅間大社からスタートして、北東に6kmとんでいくと、山宮浅間神社につきます。さらに12kmとぶと富士山の山頂さんちようにつきます。ほら、浅間大社→山宮浅間神社→富士山の山頂は、1本の線でむすべます。空から見ると2つの神社はどちらも大きな森にかこまれていますね。木花之佐久夜毘売命このはなのさくやひめのみことが、住むのにちょうどいい感じです。

ではなぜ、山宮にずっと住んでいなかったのでしょうか？2つの神社のちがいはなんでしょう？

それは、水です。浅間大社には、豊富なわき水ほうふがあります。実は、「このはなのさくやひめのみこと」は、水の神様でもあるのです。水をあつかう農業の神様なのです。そこで、水のない山宮から里宮に下りてきたのです。

山宮浅間神社は、全国に1300ある浅間神社の中で一番古いものということになります。



ひみつ2

山宮浅間神社にはなぜ本殿がないの？

山宮浅間神社に行ってみましょう。登山道（富士宮富士公園線）山宮北の信号をすぎると、左手に山宮浅間神社のちゅう車場が見えます。そこに車をおきましょう。土日は、ここにボランティアガイドさんがいて、説明もしてくれます。（10時～）

鳥居をくぐって参道を進むと、両側に136の石灯籠があります。まわりは、杉の林で、昼でもひんやりとしています。

正面に見えるたてものが、社務所（籠屋）です。社務所は真ん中が門のようになっていて、向こう側にくぐれます。そこをくぐり、まっすぐ進むと石段につきあたります。68段の石段を登ると・・・「あれっ？」

本殿がありません。よう岩で作られた祭壇があるだけです。祭壇からは、大きく正面に富士山が見えます。ここは、富士山を拝む場所（選擇所）なのです。富士山そのものが、神様（このはなのさくやひめのみこと）なのです。だから、本殿はいらないのですね。

千居遺跡の広場にあった石も富士山を拝んだ場所だったのかもしれませんがね。

◇ことばの説明

○鳥居・・・神社の中と外を分けるさかいに立てる。

鳥居の中は、神様の住んでいるところ。

○石灯籠・・・石でできたあかりをともしもの。木や紙などで囲いをして、夜、火をともした。

○社務所・・・神社のかんりをする所。ここに泊まることもある。

○祭壇・・・神様にお祈りしたり、お米や野菜を供えたりするところ。



石段

ひみつ3

山宮御神幸ってなに？

今、浅間大社に住んでいる「このはなのさくやひめのみこと」が、実家のある山宮浅間神社との間を往復することを山宮御神幸といいます。そのとき通る道が御神幸道です。神様だから通る道がいつも決まっているんですね。春4月と秋11月の2回、山宮（山宮浅間神社）と里宮（浅間大社）を行き来します。なぜ春と秋なのでしょう？

ヒントは、「このはなのさくやひめのみこと」が農業の神様でもあるということです。春は、田植えのシーズンですね。

そうです。正解！

「このはなのさくやひめのみこと」は、春、里で、イネや野菜や草花が、うまく成長するように見まもりまします。なかなかいそがしいんですよ。秋になると、今度は、山で、収穫をいわいます。このため、「このはなのさくやひめのみこと」年に2回、春と秋に、山宮と里宮を往復したといわれています。

「このはなのさくやひめのみこと」は、社人の担ぐほこに乗って移動しました。ほこは、とっても神聖なものです。

イザナギ・イザナミもほこで、日本の国を作りました。

◇ことばの説明

○ほこ・・・両側に刃がついている、はばの広いやり。神事などに使った。

○神聖・・・清らかで、けがれがないこと。

○イザナギ・イザナミ・・・イザナギ（男の神）イザナミ（女の神）2人で協力して地上に大八島（日本）を作った。

イザナギとイザナミ



ひみつ4

ほこ立石ってなに？

富士山は、世界文化遺産に登録されました。それは、「信仰の対象」として、山宮浅間神社と浅間大社が結びついているからでもあります。

明治の初めまで行われていた、山宮御神幸は、とても大切な行事でした。社人の担ぐほこは、「このはなのさくやひめのみこと」が乗っているの、と中でおろすわけにはいきません。(大変だね)浅間大社から山宮浅間神社までは、50丁あります。

1丁は、109mですから50丁で5450m(5、45km) だいたい、あなたが遠足で歩くきよりぐらいですね。浅間大社では、目印になるように、1丁目ごとに、石碑をたてました。これが丁目石です。

浅間大社には、御神幸スタートのしるしとして、首標の石碑が立っています。浅間大社を出発したほこは、首標をすぎ、1丁目、2丁目・・・49丁目まで来て、山宮浅間神社の選擇所が、ゴールです。

大切なほこは、一度も社人の肩からおりることはなかったのでしょうか？

うーん。それでは「このはなのさくやひめのみこと」もつかれてしまいますね。でも、ほこを地面に直接置くことは、けがれることになるのでできません。

そこでところどころに、ほこを休ませる石を置きました。これが、ほこ立石です。ほこは、御神幸の途中、いくつかあるほこ立石で、休けいしました。

今は、ほこ立石は、浅間大社楼門前に1つ、山宮浅間神社参道に2つ、合計3つしかありません



山宮のほこ立石

まめ知識

山宮には赤池さんが多いよ！

富士宮市で一ばん多い名字はなんでしょう？

1ばんは、佐野さんです。そのあと、渡辺さん・望月さんと続きます。赤池さんは、トップ10には入っていません。

では、富士宮の電話ちょうで赤池さんを探してみましよう。住所を見ると、山宮に住んでいる人がとても多いことに気がつきます。

山宮浅間神社の石灯籠の寄進者を見てもそのことは言えます。136基ある石灯籠のうち40基は赤池さんが寄進しています。

いつたえによると、昔、山宮浅間神社を守るために、藤原光長さんという人が、京都からやってきました。ある時、近くにある池を見ると、富士山が赤々と噴火するようすがうつっていました。これを見て、富士山を守るのに、「赤池」の姓に変えたほうがいいと思ひ、藤原から赤池に変えました。それから、山宮では、だんだんに赤池を名乗る人が増えていったそうです。

地域の人みんなで、大切に山宮浅間神社を守ってきたことがわかりますね。

◇ことばの説明

○寄進者・・・お寺や神社に土地・お金・モノを寄付した人。



石灯籠



しゅひょう
首標（浅間大社）



四十九丁目石



富士山を拝む場所（遥拝所）



しゃむしょ こもりや
社務所（籠屋）

◇『第14 山宮浅間のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『富士宮市史』 上 富士宮市史編纂委員会／図書印刷 1971
- 2 『富士の研究Ⅱ 浅間神社の歴史』 浅間神社社務所 1929
- 3 『富士山—信仰の対象と芸術の源泉』 富士山世界文化遺産合同会議／カントー 2014
- 4 『富士宮市歩く博物館ガイドブック』 富士宮市教育委員会／三扇美術 2009
- 5 『富士宮の昔話と伝説』 渡井正二／フジ印刷 2006
- 6 『静岡の地歴』 静岡県出版文化会／長田文化堂 1977
- 7 『月の輪17号』 富士宮市郷土史同好会／フジ印刷 2002
- 8 『富士宮歴史散歩』 遠藤秀男／緑星社 1980
- 9 『大宮町誌』 富士宮市郷土史同好会／緑星社 1987
- 10 『岳麓の社寺を訪ねて・山宮浅間神社』 岳南朝日 1976

